

## 令和 8 年 5 月市会本会議代表質問

平山よしかず議員(西京区)

### 【はじめに】

西京区選出の平山よしかずです。次に登壇する松田けい子議員とともに、公明党京都市会議員団を代表し、市民生活及び地域の課題に関し、できるだけわかりやすく具体的に質問します。市長並びに関係理事者におかれては、前向きで誠意あるご答弁をお願いします。

ウクライナやパレスチナ・ガザ地域における紛争をはじめ、世界各地で武力の行使が続く中、2月28日にはアメリカとイスラエルによるイランへの軍事攻撃が行われました。現在、紛争終結への交渉が続いていますが、平和的解決への道筋は不透明です。松井市長には、京都基本構想に謳われている「平和と文化」を基調とした理念の具現化による、京都からの世界平和への発信に引き続き努めていただくよう求めます。

また、アメリカ・イスラエルとイランの衝突によって、とりわけ石油資源の多くを中東に依存する日本では、原油の供給不安、価格高騰が国民生活にマイナスの影響を及ぼしています。私たち公明党は、中道改革連合、立憲民主党と一緒に、全国の地方議員による原油高影響の現場調査を重ね、京都でも多くの事業者の方々から、人手不足に加えて材料不足で仕事の継続が困難などの声をお聞きしました。

全国で1万2,562件の現場の声を基に、4月28日には3党共同で政府に対し、家計負担軽減、企業経営支援、原材料のサプライチェーン強化など緊急提言を行いました。現場の危機感はいやましており、竹谷とし子公明党代表は、「今、何が国民に必要なかを政府に力強く訴え、取り組んでいきたい」と力説しています。

京都市においても、市民生活、事業者の実態をしっかりと把握の上、国に実情を伝えつつ、必要な対策の早期実施を求めるとともに、市としても臨機応変な対応をお願いします。それでは質問に移ります。

## 【単身高齢者支援】

最初に、ますます増加する単身高齢者への支援に関し質問します。単身高齢者支援の全般的な事柄は、次の松田けい子議員が取り上げます。私は特に、日常的な生活支援について金銭管理を例にお尋ねします。

単身高齢者の方々の中には、様々な理由により生活に困難を抱えていても、民生児童委員や老人福祉員、地域包括支援センターや介護サービスなどの支援者につながっておらず、あるいは本人がこれらの支援を拒否するなどにより、周囲から孤立し、地域と疎遠となり、生活がうまくいかなくなるケースも少なからずあると思います。そのため、私たち議員団では、重層的支援体制の構築を訴えてきましたし、本市もその推進に力を入れてくださっています。

私のところへ相談を寄せて来られる単身高齢者は、殆どが慎ましい生活をされています。そのうえで、例えば、「もう少しだけ収入があれば…」「もう少しだけ家賃が下がれば…」と、家計のやりくりがままならないケースをよくお聞きします。「あと1～2週間までば年金が振り込まれるのに、いま手持ちの食費がない。」との相談などは、年金の隔月支給と、生活費の一か月単位の支出のズレが家計の金銭管理を難しくさせています。手持ちのお金のわずかな不足を、つい借金に頼ることから、余計に困窮するケースにも多く触れます。

高齢による判断能力の低下などで金銭管理などの日常生活に不安のある方には、京都市社会福祉協議会が、預貯金の出し入れなどの金銭管理や福祉サービスの利用助成などを行う「日常生活自立支援事業」を実施しています。一方で、本事業は、利用までに数か月の待機期間が生じているともお聞きしています。この待機の間にも、家計のやりくり困難を抱える単身高齢者の生活は苦しくなっていきます。

いわゆる団塊ジュニア世代が高齢者になる 2040 年に向けて、今後も加速度的に高齢化が進展し、周囲や地域から孤立する単身高齢者もますます増加すると考えられますが、京都市として、その日常生活支援にどう対応していくのか、お考えをお聞かせください。

## 【読書運動の推進】

次に読書運動に関し質問します。中国の小説家、文芸批評家である王蒙先生は、「読書は、知識と学識を豊かにし、さらには魂を豊かにし、その栄養ともなるものです」と語られています。インターネットによって膨大な情報があふれている現代社会にあって、良書は豊かな心の台地を耕すと同時に、物事の真偽や正邪を見極める透徹した眼を養います。また、一冊の良書との出会いは、子どもたちの夢を膨らませ未来へ羽ばたく翼となります。毎年4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」です。公明党のリードで25年前に成立した「子どもの読書活動推進法」が、その淵源となり、本を通じて豊かな心を育む取り組みが各地で展開されています。

テレビを消し、家族で本を読み、感想を語り合う。佐賀県伊万里市が推進する「家読(うちどく)」は、同じ本に触れて笑顔があふれ、親子の絆を温める時間にもなっています。他にも伊万里市は、市内8カ所の無人図書館「まちかど絵本箱」の設置や、日本有数の造船所で働く海外からの技能実習生に絵本を通して日本の生活や風習に親しんでもらうワークショップを開催しました。伊万里市民図書館前館長の鴻上哲也さんは「本は世界を広げるとともに、人と人をつなぐ力がある。まちづくりのツールとしても役立つ」とお話しされています。専門家からも家族、地域、多文化のつながりのツールとしての読書の重要性が改めて指摘されています。

本市では、平成16年4月に「京都市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもに読書の楽しさや素晴らしさを伝える取組みや読書環境の整備を図ってきました。今年度からは新たに策定した「京都市子どもの読書活動のための取組指針」に基づき、子どもの読書活動を推進しています。

一方、新しい図書館構想に向けた京都市図書館の整備「つながる。LIB×LAB(リブ・ラボ)プロジェクト」では、令和7年度に実施把握した市民ニーズを踏まえ、居心地のよい第三の居場所、いわゆる「サードプレイス」としての機能を持つ新たな空間のグランド・デザインの検討に入っています。私の地元、西京区でも、西京区役所・洛西支所の庁舎や前スペースを「本のある居心地の良い空間」へとリニューアルする連携プロジェクトが計画されています。

私は、本市におけるこれからの読書運動を、市民の心を耕してその生活を豊かにし、同時に、子育て、教育、地域活性化、共生社会実現など様々な角度から、京都のまちづくりを支える重要なツールとして充実させていかねばならないと強く思います。大人が読書をとおして深めた知識と学識、さらには魂を、読書をとおして子どもと関わりながら、子どもの夢と世界を広げていく。何と素敵なことか。これは京都基本構想の展開である「京都学藝衆構想」の具現化につながるものと考えます。

そこでお尋ねします。大人が本に触れ、知識や学識を深め、あるいは周りとのつながりを深めるための空間を今後どう作っていくのか、その方向性をお答えください。空間づくり、新たな図書館整備にはまだ時間がかかります。大人が、家族が、地域が子どもと読書をとおして関わるソフト面での仕組み作りをどのように進めていくのか、お答えください。

### 【市バスの民間連携】

次に本市バス事業の民間事業者との連携について質問します。質問の本旨の前にバス運賃の市民優先価格の導入について、要望を申し上げます。先日から交通局より報告のあった本案件のタイトルは「市バスの市民優先価格の制度概要について」です。しかし、私のように運賃調整区間において市バス・民間バスともに利用する市民にとっては、今回の新たな運賃制度の導入は、「バス運賃」のことであって、「市バスの運賃」のことではないのです。

西京区においてバスは地域交通を広くカバーする根幹のインフラであり、とりわけ洛西地域では4つの事業者が協力し補完し合い、バス停設備の共有化、最寄り駅への均等間隔のダイヤ調整、バスの共通化、更には敬老乗車証の利用範囲拡大などを進めてきたのです。

その立場から、調整区間における市民優先価格の導入にあたっては、民間バス事業者としっかりと協議を行い、均一区間と同水準の運賃価格差の設定とし、同時に実施すること、そのために必要ならば、民間事業者に経済面を含めて十分な支援を行うことを強く求めます。

さて、バス事業者を取り巻く状況は、運転士などの担い手不足や周辺部での利用者数の減少、燃料費をはじめとする物価高騰など非常に厳しさを増しています。これは本市だけでなく全国的な課題であり、この間、本市においても、民間バスでの運賃改定や、路線の廃止、減便が相次ぎ、生活交通の維持、確保が益々困難となっています。

この状況を乗り越えていくためには、市内バス輸送の 8 割を担う交通局がけん引役となって、民間バス事業者との連携を推し進めることが重要です。これまで私は、交通局の経営改善の観点から、例えば、地下鉄車両を民間から中古購入するとか、バス・地下鉄車両や設備を民間と共同メンテナンスするとか、あるいは燃料、資材の民間との共同購入などの民間事業者との連携を提案してきましたが、いろいろと課題はあって実現には至っていません。

しかし、バス事業の状況がいよいよ困難を極めるなか、京都市内のバス路線ネットワークを守っていくために、公営と民間が一体となって、限られた輸送力を最大限活用しつつ利用者の利便性向上を図るための連携を強化していくことが絶対に必要です。具体的には、運行路線の見直し検討、運行ダイヤの調整、運賃のシームレス化などによって事業者が互いにメリットを享受し、全体として市民の利便性が向上するような取り組みを進めるべきです。

そこでお尋ねします。市民生活の足である交通インフラを守るために、交通局として、民間バス事業者との連携について、今後どのように進めていこうとしているのか、お考えをお聞かせください。

### 【周辺地域の観光振興】

最後に、市周辺地域における観光振興について質問します。私は、平成 26 年 5 月市会代表質問、令和 4 年 11 月市会代表質問で、市周辺地域、とりわけ洛西地域での観光振興による地域活性化、隣接自治体と連携した観光振興の取り組みなどを取り上げました。改めてこのテーマを鑑みれば、一概に観光といっても、市内中心地や有名観光地と周辺地域では状況が大きく異なります。周辺地域では、いわゆるオーバーツーリズムの課題は少なく、新たな観光客を積極的に取り込んでいくことが地域活性化の観点で重要です。

この間、産業観光局では「とっておきの京都」プロジェクトなどで、より幅広い地域への観光客の誘客・分散化にお取り組みいただいておりますが、まだまだ、それぞれの地域の魅力が広く認知され、十分な観光客に訪れていただけていないと感じています。

観光の恩恵を市内のより幅広い地域へ浸透させていくために、地元の洛西・西山地域をはじめ、多様なエリアの魅力創造と発信に一層力を入れて取り組むべきと考えますがいかがですか。お答えください。

また、こうした取り組みを進めていくためには、地域の観光資源の掘り起こしや様々な関係者とのネットワークづくりなどを、地域に近く、より機動性の高い区役所・支所や、各地域で観光振興に取り組む保勝会など地域の団体などの連携が必要です。さらに言えば、質問の冒頭で指摘したとおり、市中心部と周辺地域の観光課題は異なるのですから、それぞれの地域における観光振興と地域活性化について、区役所・支所の取り組みをいっそうサポートし、それぞれの地域の視点をもっと活かした取り組みを進めるべきではないでしょうか。

例えば洛西支所では、京都西山竹あかり、京都西山ヒルクライム参拝など、支所や京都西山・大原野保勝会が中心となり、向日市、長岡京市、大山崎町などの周辺自治体などとの連携により事業を企画立案し、実施することで地域の活性化に貢献しています。このような取り組みを更に強化して、洛西地域にお住まいの方々が、地域活性化をより実感できるよう進めていきたいと考えます。

そこでお尋ねします。今後の市周辺地域の観光振興は、市域全体の観光振興を担う産業観光局や京都市観光協会と、区役所・支所や地域団体との更なる連携が一層重要であると考えますが、いかがですか。お答えください。

以上で私の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

310 × 16分 = 4,960